

2/8
(月)JA鹿児島いずみが町に寄付
農業者を応援

新型コロナウイルス感染症対策に役立ててもらうため、鹿児島いずみ農業協同組合は2月8日、町に寄付金を贈りました。

同日来庁した上宗光代表理事組合長は「コロナ禍で地域貢献活動ができなかった。寄付は農業関係者に役立つよう、有効に使ってもらいたい」と話し、川添町長に目録を手渡しました。



川添町長へ目録を手渡す上組組合長(写真右)

2/10
(水)NPO法人が桜の苗木を寄贈
花いっぱいのに

川添町長に苗木を手渡す吉井代表(写真中央)

2月10日、NPO法人「How to 21 Club」(出水市)が本町へ桜の苗木を寄贈しました。

同法人は環境問題に関する活動を展開しており、この一環として、町内の天ぷら油の回収と再利用を行っています。今回は活動協力に対する町への感謝として、寄贈を決めました。

吉井秀之代表は「長島が花いっぱい、憩いの場になれば。ますます発展してほしい」と話しました。

今回寄贈された桜はカワヅザクラ20本やヤエザクラ5本、ヤマザクラ4本、イズノオドリコ1本でそれぞれ町内各地の沿道に植栽されました。

2/13
(土)城川内小学校で親子料理教室
ふるさとの味覚える

2月13日、城川内小学校(海江田徹男校長・93人)では、ふるさとの味を知るための親子料理教室がありました。

今回は3、4年生の児童28人と保護者10人がポテトサラダとポテトガレットに挑戦。児童らが校舎周辺の畑で育てて収穫したジャガイモが使われました。

保護者から包丁の使いかたや素材の扱いかたを学び、児童らは丁寧にジャガイモの皮をむいたり、切ったりして料理を楽しみました。約2時間かけて完成後、テーブルの前に並んだ力作を前に全員で「いただきます」をして、地元食材に舌鼓をうちました。

4年生の増田凜さんは「ジャガイモを千切りにするのが難しかった」と満足げでした。



包丁を握る表情は真剣そのもの